

2013:東芝 国際マルチセンタースタディによる非造影MRアンギオの臨床有用性(腎動脈狭窄)を欧州放射線学会で発表

- 東芝が後援する国際マルチセンタースタディREACT(RENal Artery Contrast free Trial)の成果が、2013年3月7日オーストラリアのウィーンで開催された欧州放射線学会(ECR)で発表された。より安全な検査で、腎動脈狭窄を診断する非造影MRアンギオ(MRA)検査の有用性が報告された。
- 研究の背景は、ガドリニウム系造影剤による腎性全身性線維症(NSF)を避けるため、造影剤を使わずに血管を高精細に描出可能な非造影MRAの臨床的有用性を確認することが必要であった。
- REACTは、米国、フランス、スペイン、中国、日本(東京大学)の5か国6施設にて、75名の患者に対して、非造影MRA検査及びCTアンギオグラフィ検査を実施し、非造影MRA検査の高い感度、特異性及び診断精度を示す結果と、CT検査との診断能との間に統計的差異がないことが確認された。